

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590700088		
法人名	社会福祉法人 緑山会		
事業所名	グループホーム 幸ヶ丘		
所在地	山口県下松市大字山田字四郎丸111-4		
自己評価作成日		評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
調査実施日	令和4年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑山会全体で取り組んでいる医療と福祉のベストパートナーを念頭に掲げ、地域住民との連携や関係性の維持向上を図っている。入居されている方や家族に対しては安心して生活できる生活の場。不安を軽減することでの日常生活の透明化を図る事が出来ている。
24時間の医療体制の確保と定期的な訪問往診・訪問看護・訪問歯科・口腔ケア等の実践を継続し、状態異常や体調の変化へのスムーズな対応が行えている。
新型コロナウイルス感染拡大防止にて、外部(ボランティア・外出等)の地域との関わりの減少は見られるが、室内でのレクリエーション行事などは、密なものでの対応をし、マンネリ化を防止している。
職員研修も感染状態を確認しながら、ネットを生かした研修会へも参加実践を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では「お世話をする」のではなく、利用者一人ひとりが「生き活きと、その人らしく」暮らせるように行事やサービスを工夫して支援に取り組んでおられます。入居時には利用者のこれまでの暮らしやこれからの希望、趣味、好きなもの、嫌いなもの、大切にされているもの、家族の意向等を把握し活用され、日々の関わりの中では、利用者の状況や言動、表情、できること、できないこと、喜ばれたこと、好きなことなどを記録して職員間で共有され、常に「利用者らしい暮らし」になっているかを話し合っておられます。代表者は、職員の質とケアサービスの向上を目指されて、外部研修の受講や内部研修の計画的実施をされ、職員各自が質の向上を目指して年間目標を立てられ、毎月の「資質向上チェックシート」を元に、半年毎に反省をされ、自己啓発に取り組まれるなど、働きながら知識や技術を身に付けていくことを進めておられます。コロナ禍の中、外出が困難でも、馴染みの場所へのドライブや車窓からの花見、畑仕事、ウッドデッキでの喫茶等、週1回は外出できるよう工夫して実施しておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループ内の理念、事業所内の理念の目につく場所に掲示し、職員へは周知・徹底を図っている。 地域密着型サービスの意義を踏まえた理解と業務を遂行している。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示し、職員の名札の裏にも記載して、常に確認できるようにしている。毎月の全体会議時で理念について話し合い、利用者の尊厳を守り、自己決定を大切にした支援になっているかを確認し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流は残念ながら、新型コロナウイルス感染予防対策の観点から行えなかった。 事業所自体での地域交流も出来なかった。	自治会に加入し、地域の情報は自治会報や年間行事から把握している。コロナ禍の為、利用者が参加できる行事はすべて中止となっている。事業所でも地域の人が参加できる行事は実施していない。ボランティアにも来訪を待ってもらっている。月2回(週1回)、移動販売車(2軒のパン屋とマックスバリュー)の来訪と、月1回地域の美容師の来訪があり、利用者はいつでも活用している。事業所周辺を散歩時に会える地域の人と挨拶を交わして交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けての認知症の理解や支援方法の活かした活動は出来ていない。 地域の方の来訪時はパンフレットや活動費等の対応は出来たと思う。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価や外部評価での施設として足りない事に足しては職員間・職場内での話し合いをもち、共有意識をもつての業務は行えた。	管理者は、職員に評価の意義について説明し、自己評価をするための書類を職員全員に配布し、記録後、リーダーと2人でまとめている。前回の外部評価結果を受けて、目標達成計画を立て、外部研修や内部研修で訪問看護師の指導を受けて、緊急時の対応や心肺蘇生、AEDの使用方法、転倒やケガの処置、誤薬、咀嚼、嚥下、食中毒、感染症対策に取り組むなど、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防の観点から、構成員の方への開催時に文章での配布を実践。 意見・評価を頂き、改善点の洗い出しをし、文章での報告を行い、業務に活かす事が出来た。	会議は、コロナ禍の爲、年6回、活動報告や研修報告、委員会報告、事故・ヒヤリハット報告、避難訓練、コロナ対策の現状等について、定期的に文書で報告をしている。その都度、メンバーから「評価、要望、助言」を文書でもらい、もらった意見は「議事録」に整理し、再度、メンバーに送付している。メンバーからは、コロナ禍の中でも利用者の笑顔が見えて安心していることや、ガラス越しの面会ができてうれしい、事業所内で季節ごとの取り組み（初詣、参拝とおみくじ、晴れ着姿）への感謝と労い、感染症対策の現状について、コロナ予防接種について、事故やヒヤリハットの再発防止策についてなどがあり、その都度、職員間で話し合い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	新型コロナウイルスワクチン対応ではスムーズな連携がとれ、早期の接種に繋がられた。食費は水光熱費などの高騰での対応検討など、話し合いを持って頂いたり、連携が密に摂れたと思う。	市担当者とは電話や直接出かけて、情報交換や市のサービス、新型コロナワクチン接種への対応、運営上の疑義等について相談し、助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や電話で情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0委員会の定期的開催(3カ月に1回)を継続的に行えた。実際には施設での拘束はないため、他の施設の事例など、自職場に置き替えての話し合いが多くなった。	職員は、内部研修で「身体拘束排除マニュアル」を基に学び、3か月毎に実施している「身体拘束0委員会」で話し合い、身体拘束、虐待の内容や弊害、スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロックなどについて正しく理解している。毎月、職員一人ひとりに「接遇チェックシート」を実施して、身体拘束、虐待をしないケアに取り組んでいる。玄関には施錠をしないで、外出したい利用者に気づいた時には、職員と一緒に散歩をしたり、おしゃべりをして気分転換を図っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の身体拘束研修参加の促しと、各階にマニュアルの確認と内容変更を実践。 身体拘束になりうるかの確認対応を行った。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に対しての研修会への参加も出来ておらず学ぶ機会を作るように考えている。 職員へは共有意識が持てるように学習の機会を提供したい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族が理解できるように丁寧に説明が出来ていると思う。疑問点などは、しっかり説明している。 退居での不安解消。次の居場所等、安心・理解を十分確認している。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置は継続して行っており、定期的に確認しているが、意見・指摘等もなく、意見・指摘等がある場合は早急に対応を出来る状態にはしている。 苦情対応対策揭示(運営者・管理者・第三者)	相談苦情の受付体制、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて、契約時に家族に説明をしている。家族からは面会時(玄関でガラス越しで15分程度の面会)や運営推進会議時、電話、手紙等で意見や要望を聞いている。意見や要望は「申し送りノート」に記録して職員間で共有している。毎月、多くの写真掲載の事業所便りと利用者を担当している職員による近況報告をし、面会時には管理者の方から言葉をかけて、利用者の日常の様子を話し、家族が気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。家族からは、面会についてや、コロナ対策の状況と職員への労いがあり、個別の要望(服装や体調)についてはその都度対応している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ではあるが、職員からの意見や提案を聞ける時間を作っている。(月1回) 年2回振り返りとして、職員面談を実践。	毎日の朝礼時や月1回の全体会議、月1回のリーダー会議、委員会活動(行事、リスク、身体拘束、園芸、環境コスト)の中で聞く他、年2回、個別面談をして聞いている。日頃から管理者の方から言葉をかけて、職員が意見を言い易い雰囲気づくりに努めている。職員は毎月の「接遇チェックシート」や年1回の「資質向上チェックシート」、半年ごとの「振り返りシート」、面談時の意見等、あらゆる機会を通して意見や提案を聞いている。職員からは、業務改善(時間帯と業務について、入居者の対応)についてや物品購入(洗濯機、電子レンジ、鍋等)、勤務体制(業務内容、当直、残業、研修、人事交流、資格取得等)についてあり、運営に反映している。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の振り返りシートを使用した個人目標を設定し、それに向けた業務の達成感や反省などを話し合っている。有休や産休など、取得しやすい環境整備をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	面談にて各職員の実力の付く研修の選択と経験に応じた研修の選択。 働きながら技術向上への取り組みをする。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は「研修報告書」を提出してもらい、月1回の全体会議の中で伝達して全職員が共有している。今年度は「認知症ケアを考える」に2名、「高齢者入所施設向け感染対策研修」に1名、参加している。内部研修は、年間計画を立て、毎月、管理者や訪問看護師、外部講師が指導者となって、身体拘束・虐待について、困難事例について、咀嚼・嚥下、感染対策について、プライバシー（苦情・接遇）、心肺蘇生（AEDの使用方法）、新型コロナウイルス現状、ヒヤリハット・事故報告、食中毒、スキントラブル、感染対策、土砂災害時の対応等のついて実施している。新人研修は、県主催の新人研修を受講後、日々の業務を通して、管理者や先輩職員から介護の知識や技術を学べるように支援している。職員は5つの委員会（行事、リスク、身体拘束、園芸、環境コスト）での役割を持ち、職員一人ひとりが質の向上を目指して年間目標を立て「資質向上チェックシート」を毎月提出し、半年毎の反省をして自己啓発に取り組んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染予防の観点から、現在は出来ていませんが、他のグループホームの方との仕事に対しての交流の計画は考えています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との面談・聞き取り時に本人と家族を交えた施設での生活に必要な事の洗い出しをし、プランに挙げている。 サービス開始時は同意はしっかり確認している。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	プラン開始前には家族としっかり話し合い、家族の希望もサービスに反映している。 新型コロナウイルスにて電話での対応が多くなっている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時前にしっかり話し合い、入居されてからではなく職員への共有して対応出来るように口頭や文章にて掲示している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が何が出来て何が出来ないかを見極め介助を行っている。 何が必要であるなども、職員共有をして対応している。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族は新型コロナウイルス感染防止の観点から、面会は難しいが、電話や玄関に来られた際は、現状や日常的な出来事など、職員の方から話しかけながら、絆を大切にしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個人ノートを作成しているので、馴染みな方や場所など、昔を思い出して頂くように、職員は内容の把握をしている。	コロナ禍の中、工夫した家族と短時間の面会や、電話や手紙での交流を支援している。テレビや新聞で地域の情報を目にした時や持参している写真を見て、思い出を職員に語っている。馴染みのパン屋やマックスバリュの「移動販売車」の利用、毎月来訪の「美容師」の利用、ドライブで米泉湖や笠戸島、スポーツ公園、花見(桜、菜の花、彼岸花、コスモスなど)に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように工夫して支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関りを促す様に職員が中に入って皆での楽しく生活できるような支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他病院や施設への移動時は、入居者や家族への不安が大きいため、しっかりと説明を行い、手続等の流れもスムーズに出来るように説明や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向や希望の尊重は行っているが、事例困難時などは会議を開催し、検討実践している。家族への意見の確認し、対応している。	入居時には利用者のこれまでの暮らしやこれからの希望、趣味、好きなもの、大切にしているもの、家族の意向等を「入居者基本情報」に記録して活用する他、日々の関わりの中で利用者の生活状況や言葉、表情、行動、できること、できないこと、喜ばれたこと、好きなこと、嫌いなことを介護記録や申し送りノートに記録して思いの把握に努めている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルの作成を行っているが、(3月・10月)の更新をし、情報が古くなることを防止している。 過去歴・現在歴の確認が出来る体制。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人個人の出来る事・出来ない事を職員が把握し、それに対してのサービスの提供や日常的な活動支援を行っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人個人の課題を月に一回各階に会議を開催している。課題解決に職員のみでは対応できない時には家族に報告し、意見を聞いて決定することもある。決定後は介護計画に反映している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員を中心に、毎月1回、カンファレンスを開催し、本人の思いや家族の意向、主治医、訪問看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。利用者の課題や改善項目、職員の意見等を詳細に「会議録」に記録して共有できるように工夫している。3か月毎にモニタリングを行い、その都度見直している。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果での検討し、計画の見直しをする繰り返しを実践している。 大きな内容変更は家族と検討会をもって変更を行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り入居者や家族のニーズに沿ったサービスの提供を行っているが、困難事例時は医療や他の施設の意見も取り入れながら行っている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域への外出の機会が低下している。 (花見や祭り中止)施設内でも行事を現在は充実させるように検討している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問往診と月1回の訪問診療での受診の指示があれば、対応している。入居者や家族の意見を聞きながら、担当にも相談し対応を検討することもある。	本人及び家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診を受けている。週2回、訪問看護師の来訪があり、利用者の健康管理を行い、助言や指導を受けている。他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は月2回の訪問診療と、月4回、歯科衛生士による口腔ケアを受けている。受診結果は「受診ノート」や「申し送りノート」に記録して職員間で共有し、家族には電話や面会時に報告している。24時間オンコール体制にあり、協力医療機関や訪問看護師と連携して適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医からの指示の下、週2回の訪問看護の実践を行っている。軽処置やくすり変更などスムーズな対応が来ている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態異常での入院や受診はご家族への連絡は早期対応している。ある程度は状態の説明を行うが、詳しい事は病院等からご家族へ説明して頂くように伝えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しては契約時に用紙にて確認し、家族・施設・かかりつけ病院での保管にて対応。 年1回の家族への再度確認し、内容確認を行っている。	「重度化した場合における対応の指針」を基に、事業所のできる対応について契約時に家族に説明して同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から利用者や家族の意向を聞き、主治医や訪問看護師と話し合い、医療機関や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	急変や事故時の対応マニュアルを職員と確認(施設内研修時) 応急対応時は訪問看護に初期対応の方法指導。 ヒヤリハット・事故・事故(行政)と細かく設定し、用紙作成を行っている。	事例が生じた場合は、「ヒヤリハット報告書」「事故報告書」に発生日時や場所、発生状況、処置対応、原因の分析、予防対策等を記録して回覧し、周知、共有している。月1回の全体会議の中で再度検討して、一人ひとりの事故防止に努めている。月1回の「リスク委員会」では、報告書を基に傾向や内容を月毎に整理、集計して再発防止に努めている。事故発生に備えて、応急処置・初期対応マニュアルを基に内部研修の中で、訪問看護師から緊急時の対応や心肺蘇生、AEDの使用方法、転倒や怪我の処置、誤薬、咀嚼、嚥下、食中毒、感染症対策について実践研修を実施している。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練の実施。 施設内研修にてハザードマップから現施設の移動や避難場所の確認を定期的に行っている。 ハザードマップ掲示	防火管理者を中心に、年2回、併設施設と合同(1回は単独)で夜間の火災を想定した通報訓練、避難誘導訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を利用者と一緒に実施している。当地域は水害や土砂災害地域であると聞いていたが、水害や土砂災害地域ではないことがわかる。災害時(今回の14号台風)の避難場所は公民館や中学校等と市から案内を受けている。地域とは災害時の協力体制について話し合っていない。非常用食品は法人で備蓄している。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1回の接患チェックシートを各職員に提出して頂き、自分の振り返りを実践。 用紙を確認し、保管 声のトーンや会話のスピードなど、気を付け対応している。	職員は内部研修(プライバシー、接遇)で学び、接遇チェックシート(言葉、服装、清潔、笑顔、対応等)の活用、管理者による「声のトーンを下げて、ゆっくり話そう」の継続した指導を通して、誇りやプライバシーを損ねない言葉づかいや対応をしている。個人情報の取り扱いに留意し、守秘義務を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の方から、決めていくのではなく、まずは入居者からの決定を重視している。 思いの尊重や気持ちを聞ける体制を整えている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合うように心がけている。 業務優先的になりがちだが、一旦、下がった位置での介助を共有して行っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装を入浴時など、一緒に選んで来て頂くようにしている。どうしても厚着する時は季節を思い出して頂くなど、会話しながら、対応。 衣類は定期的に交換している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	料理レクを月に1回は行うようにしている。協力して作成できる物にし、出来た楽しみなども実感して頂いている。 喫茶はウッドデッキなどで、皆さんでされることもあります。	三食とも副食は法人からの配食を利用し、ご飯と汁物は事業所で作っている。利用者との畑作りでとれた旬の野菜(ピーマン、オクラ、とおもろこし、ジャガイモ、トマト、茄子、苺、ブロッコリー、さつまいも)を汁物や彩に使い、料理レクに利用している。利用者の好みや状態に合わせて形態の工夫や個人用の食器、箸を利用して、食欲が湧くように工夫している。毎食、検食があり、味付けや利用者の摂取状況を確認して、月1回、法人の給食会議に報告して、献立作成に参考にしてもらっている。利用者は配膳や下膳、お茶くみ、お盆拭き、テーブル拭き、おにぎりをつくる他、月1回の料理レク(パバロア、豆腐アイスクリーム、かき氷、バターを付けたジャガイモ、焼き肉、ぼた餅、抹茶ロールケーキ、カップラーメンの日)では、切る、刻む、混ぜる、こねる、ひっくり返す、盛り付けなどできることを職員と一緒にしている。食事中は静かな音楽が流れ、食事担当の職員が利用者と同じテーブルについて同じものを食べている。毎月1日は赤飯であり、ケーキづくりをする誕生日、ウッドデッキでのお茶やおやつを食べたり、季節行事食(おせち料理、節句の寿司、土用の鰻、ソーメン流し、年越しそば、雑煮、餅つき)など、食事が楽しみなものになるように工夫して支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の管理で栄養の管理を行っている。水分や食事量は表の中から職員が確認し、摂取量等の低下が見られた際は提供。水分も工夫をしながら摂取できるように提供している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週4回の歯科衛生士の口腔内清掃をしている。食後はその人にあった口腔ケア(歯磨き等)を実践。難しい部位にはスポンジ・ガーゼ対応することもある。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意や便意のない方以外にも表にて定期的 にトイレ誘導を実践している。 排泄パターンを職員共有し、オムツからリハ ビリパンツへの変更も検討している。	排泄表を活用して、一人ひとりの排泄パター ンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉 かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の 自立に向けた支援を行っている。内部研修で オムツ着用時のスキントラブルを学び、利用 者個々の皮膚状態の観察を行い、個々に応 じた支援に取り組んでいる。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認は毎日行うが、-3日から薬等の対応をするようになっている。職員2名で状態を確認。 散歩等の行動的な動きを職員から提案している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴実践確保するが、入浴拒否が頻繁にある。入浴拒否をされる方には、時間を変えるなどの方法をとっている。 (午前・午後・夕方)	入浴は毎日、14時から16時までの間可能で、希望すればナイト入浴(18時～19時)もできる。順番や湯加減、季節の柚子湯等、一人ひとりの希望に応じてゆったりと入浴できるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、少なくとも週2回、入浴してもらうように時間を変えたり、言葉かけの工夫、職員の交代をして対応している。利用者の状態に合わせて、清拭や足浴、シャワー浴、部分浴等、個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	部屋の明るさや温度に気を付け、睡眠しやすい環境の整備を行っている。 寝つきが悪い方にはホットミルクなど、本人が落ち着ける物の提供もすることがある。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルやお薬手帳を確認しながら、間違えの内容に服用して頂いている。 服薬ボックスを作成し、服薬間違えの内容に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった過ごし方の提供。全体で行う行事等は積極的に声掛けを行っている。 会話から入居者の興味がある事や昔に行っていたことなどを職員が把握し、提供を出来るようにしている。(個人ファイル)	居室の掃除(拭く。掃く)、洗濯物(干す、たたむ、収納)、カーテンの開閉、花を生ける、花瓶の水を換える、畑の土づくり、畑に苗植え、草取り、法人からの配食品のチェック、テーブル拭き、お盆拭き、お茶くみ、配膳、下膳、料理レク、おやつづくり、誕生日のケーキづくり、ウッドデッキでの喫茶、かき氷づくり、テレビやDVDの視聴、ラジオやCDを聞く、本や新聞、雑誌を読む、折り紙、粘土細工、ぬりえ、切り絵、貼り絵、習字、歌を歌う、カラオケ、季節の壁画づくり(彼岸花)、かるた、トランプ、カレンダーづくり、風船バレー、ボール遊び、輪投げ、四字熟語、ラジオ体操、テレビ体操、口腔体操、梅干し体操、ごぼう先生の体操、季節行事(書初め、正月遊び、豆まき、母の日、七夕、ミニ運動会、スイカ割、コスモス見学)、誕生日会、敬老会等、楽しみごとや活躍できる場面づくりをして、利用者一人ひとりが気分転換を図り、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止の観点から、外出は難しいが、感染状況から、車内からの花見などは行っている。 外への散歩などは時間を見ながら対応している。	事業所敷地内の散歩やウッドデッキでの外気浴や日光浴、お茶を飲む、畑仕事(土づくり、苗植え、水やり、草取り、収穫)、車窓から季節の花見(桜、菜の花、彼岸花、コスモス)、ドライブ(下松市内、米泉湖、笠戸島、スポーツ公園)等に出かけている。感染症対策を十分にしてい、週1回は外出できるよう「外出チェック表」を作成して、利用者に声をかけるなど、できるだけ、出かけられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭トラブル防止の為、本人にはお金を持たせて頂く事はやめています。 本人希望の購入は施設から立て替えて希望に沿った購入は出来ている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との繋がりがなくならないように、定期的なお手紙や電話を行っている。 月1回の幸ヶ丘だよりも日々の生活の状況がわかると家族の方も喜ばれている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	感染予防の観点から、空気の入替えや温度・湿度の調整をしている。 季節の壁紙なども行い、季節感を味わえるようにしている。	リビングは明るく広々としている。大きな窓からは外の景色を見ることができる。広いウッドデッキには、大きなテーブルや椅子を出して、外気浴や日光浴、喫茶を楽しんでいる。室内には季節の花(ユリ、彼岸花、桔梗)を飾り、テーブルや椅子、大型テレビ、ソファ、空気清浄機がゆったりと配置してある。オープン型のキッチンからは調理の様子が見え、音や匂いが五感を刺激して生活感を感じることができる。壁面には利用者の手作り作品や季節の壁画、行事の写真が飾ってある。温度や湿度、換気に配慮し、定期的に消毒をして居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話しやすい席の配置やウッドデッキイスでのゆっくりした時間の提供が出来ている。 お部屋で1人で過ごしたい時には、居場所確認は行いが、ゆっくりして頂いている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の配置は各お部屋自由に行って頂いている。 掃除時は元にあった場所に配置などは気を付けて対応している。	テレビ、箆笥、三段ボックス、サイドテーブル、衣服、洋服掛けスタンド、時計、整容道具、筆記用具等、使い慣れたものや好みの物を持ち込み、自作品やカレンダー、表彰状(百二歳)等を飾って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやバリアフリーなど、安全に自由に移動できる体制。 トイレ等も表示を大きくし、わかりやすいようにしている。		